

インタビュー

あらゆるものをユビキタスに つなぐ環境・サービスの 実現に注力

NTTコミュニケーションズにおいて、各種ネットワークサービスをはじめ企業向けにICT環境を提供するためのサービス企画、開発、設計、マーケティング等を行うビジネスネットワークサービス事業部。“あらゆるものをユビキタスにつなぐサービス・環境の実現”をコンセプトに、新たな市場・ビジネスの創出に注力する同事業部の取組みについて、原隆一事業部長にうかがった。

ICT／ネットワークは クラウド化（融合）の方向に

—はじめに、企業向けビジネスネットワークサービスの最近のトレンドや貴事業部を取り巻く市場環境からお聞かせください。

原 私 は1980年の入社ですから、今年でちょうど30年になります。1980年代、コンピュータシステムはメインフレーム、ネットワークは一般専用線が中心でした。1990年代に入ってから、ネットワークは高速デジタル、フレームリレー、ATMなどパケット交換技術を用いたサービスが開始されました。ネットワークの高速化に伴い、コンピュータシステムはクライアント／サーバシステムのような分散型のコンピュータシステムが主流を占めるようになってきました。そして2000年代に入ると、ネットワークのIP化が急速に加速し始めました。まさに、この20～30年でコンピュータシステムとネットワークは相互に影響しあいながら発展してきています。特

にネットワークは、専用線、パケット交換、IPというように、10年単位で新しい技術により大きく進化してきており、企業向けネットワークサービスはこの10年間で、イーサネットサービスやIP-VPNサービスへ大きくシフトするとともに、ブロードバンド環境がほぼ100%浸透しました。そういった観点から見ると、2010年はまた新しいICT／ネットワーク環境の始まりの年になるのではないかと考えています。



NTTコミュニケーションズ(株)
ビジネスネットワークサービス事業部長
原 隆一氏

—それはどのようなものですか。

原 私は、ブロードバンドの普及、コンピュータシステムの高機能化・仮想化技術、ネットワークの広帯域化・モバイルとの融合によって、クラウド化（融合）が進展してきていると考えています。30年前のメイ

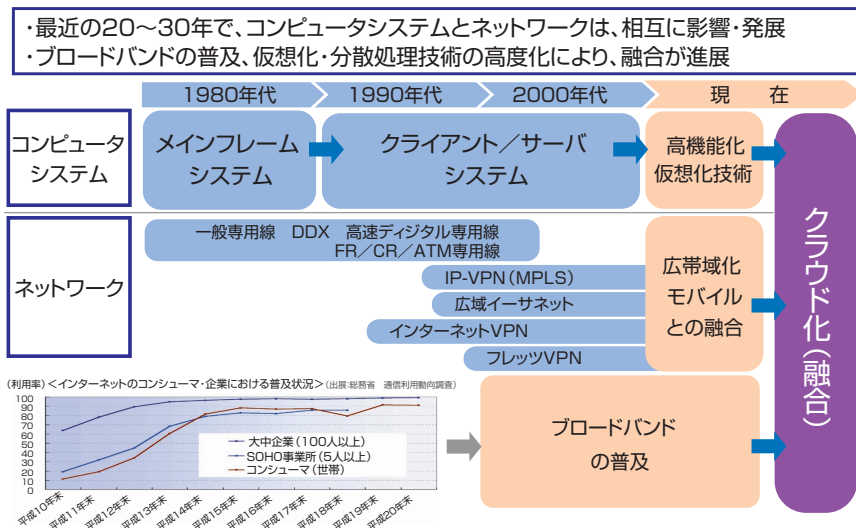


図1 市場環境 - ICT/ネットワークの変遷 -

ンフレームの時代も、遠隔地にある大型コンピュータシステムをネットワークを介して利用するということが、ある種のクラウドコンピューティング環境が既に存在していたと思います。違うのは、コンピュータの性能もネットワークの速度も、今とは比べものにならなかったということです。この30年でのコンピュータシステムおよびネットワーク技術の進展によって、クラウド環境のパフォーマンスは飛躍的に向上してきています。

——クラウド時代に求められるネットワークについては、どのようにお考えですか。

原 さらに高速化と信頼性、そしてネットワークを含めたシステム全体のセキュリティ強化、さらには遅延を最小限に抑えるネットワークであることが必要です。

次の10年に向けて、 3つの主要施策を推進

——クラウドという新しいICT／ネットワーク環境の到来を踏まえ、2010年はどのような施策を推進されるお考えですか。

原 2010年は、次の10年のスタートの年であり、いよいよ本格的なクラウド、すなわち仮想ネットワークの時代に突入したと捉えています。そのような市場環境に対し、仮想ネットワークを駆使し、人の数やアプリケーションの数、さらに使用目的に応じてネットワークをオーバーレイしていけば良いと思いますが、品質を決定するのはやはり物理ネット

ワークです。したがって、これまでキャリアとして構築してきたイーサ専用線、e-VLAN、IP-VPNといった物理ネットワークと、新たな仮想ネットワークを上手く組

み合わせて、シームレスに運用し提供していくことが、新しい10年の私どもの事業領域だと認識しています。もちろん物理レイヤと仮想レイヤをシームレスにオペレーションするためには、仕掛けとノウハウが必要であり、それはネットワークオペレーティングカンパニーであるNTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）の他社には真似のできない大きな強みです。これらの強みを活かし、2010年から始まる新しい10年のICT／ネットワーク環境を創造することが私どもの使命です。そのスタートの年である2010年の事業戦略として、次の10年に向けて大きく3つの柱からなる施策を推進していきます。

まず1つ目は、企業向けネットワークサービスのリニューアルによる競争力強化です。具体的には、新たなサービスブランドデザインに基づき、現在の物理ネットワークをよりシンプルなサービスへ再構築します。現在のネットワークサービスは、アクセス系を含めるとメニューが非常に多くて、お客様からは分かり難い印象があります。これをよりシンプルにすることで、SO（サービス

1. 企業向けネットワークサービスのリニューアルによる競争力強化

2. BizCITY・ユビキタスサービスの推進による新規事業展開

3. サービストータルでのシームレス・ワンストップなオペレーションを確立し高品質なサービスを提供

図2 事業戦略の3本柱

オーダー）やデリバリーなどのオペレーション、さらには、営業やマーケティング体制もシンプルかつ効率化でき、価格競争力も強化することができます。

2つ目は、NTT ComならではのBizCITY・ユビキタスサービスを推進し、新規事業領域を開拓することです。BizCITY・ユビキタスサービスは、お客様がお持ちの既存のICT環境と新たなクラウドコンピューティング環境をシームレスにつなげるサービスです。固定・モバイル・VPN等を含むあらゆる物理ネットワークを介し、キャリアフリーかつデバイスフリーのセキュアなクラウドコンピューティング環境を提供します。ユビキタス環境に必須な機能として、認証・ID管理、シンクライアント（WebOS）、ストレージ、プレゼンス、VoIP等の機能は、1つのサービスとして提供することを考えています。また、パートナーと連携し、ユビキタスな環境上でSaaSアプリケーションを提供していきます。

3つ目は、アクセス、ネットワークさらにBizCITYまで、サービストータルでのシームレスでワンスト

ユビキタスサービスにより目指すもの

あらゆるものをユビキタスにつなぐサービス・環境を実現し
新たな市場・ビジネスを創出1. 高セキュリティ・高信頼なクラウド環境を実現する「BizCITYサービス基盤」を構築し
法人向けビジネスを展開

- 「BizCITYサービス基盤」上で、クラウドサービスをワンストップで提供する
とともに、アプリケーションパートナーと連携し、サービスを拡充
- 仮想ネットワークにより、セキュアにデバイスフリー、キャリア・ネットワークフリー
のユビキタスなビジネス環境を実現
- 様々なサービスを同じインタフェースで受けることができる

2. 仮想ネットワークを拡充・発展させ、物理ネットワークに依存せず、あらゆるものをつ
ないで、無限に広がる仮想ネットワークの新たなマーケットを、様々なパートナ
とのサービス共創により、創出する

図3 BizCITY・ユビキタスサービスの推進

ップなオペレーションを確立し、高品質なサービスを提供することで。私は、「つなぎ続ける」「切れたら直ぐにつなぎ直す」という日々のオペレーションがネットワークサービスそのものであり、最初はお客様に見えませんが、実際に使い続けていただく中で非常によく分かっていただけのものだと考えています。

あらゆるものをユビキタスにつなぐ環境・サービスを実現

——今年から始まる新しい10年の事業ビジョンとして、どのようなことをお考えですか。

原 前述したように、ブロードバンド環境が整った今、次の10年に向けてICT／ネットワーク環境を革新し、新しいマーケットを創出することが私どもの仕事です。私は、次の10年に向けた事業ビジョンとして“あらゆるものをユビキタスにつなぐ環境・サービスの実現”を掲げています。2010年に向けたNTT Comの中期ビジョンを策定した際のキーワードが、“あらゆるものをつなぐ”でした。十数年前にブロードバン

ド&ユビキタスという言葉が喧伝され始めましたが、十数年経った今、ブロードバンド環境は整いましたが、まだあらゆるものをつなぐというユビキ

タス環境は実現されていません。あらゆるものをつなぐということは、物理ネットワークと仮想ネットワークからなるユビキタスなクラウド環境そのものだと思っています。人の数、アプリケーションの数、機器の数、用途の数だけ等々、目的に応じて無限に広がる安全でユビキタスなネットワークを利用できる環境を実現することにより、新たな市場・ビジネスの創出が可能になります。私は、あらゆるものがつながる環境・サービスを実現することで、これまでにないビジネスモデルが創造できると考えています。

あらゆるものをつなぐという観点では、おそらく今はまだ世の中の数%しかつながっておらず、残りの90数%がつながるのはこれからです。その意味では、我々は新しい10年を創造する非常に面白い時期に直面していると言えます。

——非常にやり甲斐のある仕事に従事できる喜びがありますね。

原 そうですね。なかなか次の10年を創るという仕事はできないですからね。せっかくの機会だからこそ、

社員一人ひとりが思う存分仕事を楽しんでほしいと思います。ただし、お客様のためにスピード感を持って展開していく必要があるため、決めたことをすぐに実行し、もしそれが間違っていたら躊躇なく修正する。このサイクルを上手く回していくことが重要です。

——最後に、ユビキタスなクラウド環境実現のマイルストーンと、今後のビジネスの抱負についてお聞かせください。

原 あらゆるものを安全につなぐユビキタスなクラウド環境は、3年程度ですべて作り上げたいと考えています。この環境を利用するプレイヤーは数多くでてくると思いますし、そういったプレイヤーをNTT Comの法人ユーザーとつなぎ合わせていくことがサービスだと考えています。

クラウド環境をグローバルに実現することにより、今以上にネットワーク上で様々な経済活動が活潑に展開されるようになります。このB to B to Cの経済活動の例え1%でもネットワークサービスの収入として積み上げられることを考えると、現在の国内電気通信市場約20兆円をはるかに超える規模になり得る可能性があります。これがこれからの10年で我々が目指すマーケットの大きさだと考えており、ここを目指して先陣を切って走っていきたいと思います。

——本日は有り難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)